

フィンランドの地層処分

＜宮城 磯治・笹田 政克＞

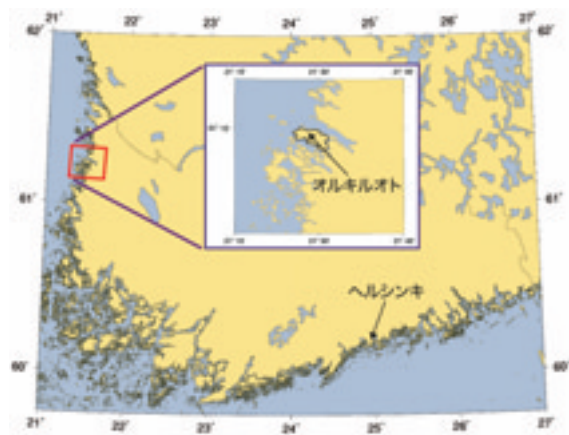
日本から一番近いヨーロッパと言われるフィンランド(同国政府観光局)は、放射性廃棄物地層処分事業に関して日本の10～20年先を進んでいる。フィンランドには原子力発電所が「ロヴィーサ」と「オルキオト」に在り、国会は「オルキオト島(エウラヨキ)」への高レベル放射性廃棄物処分を2001年に承認した。



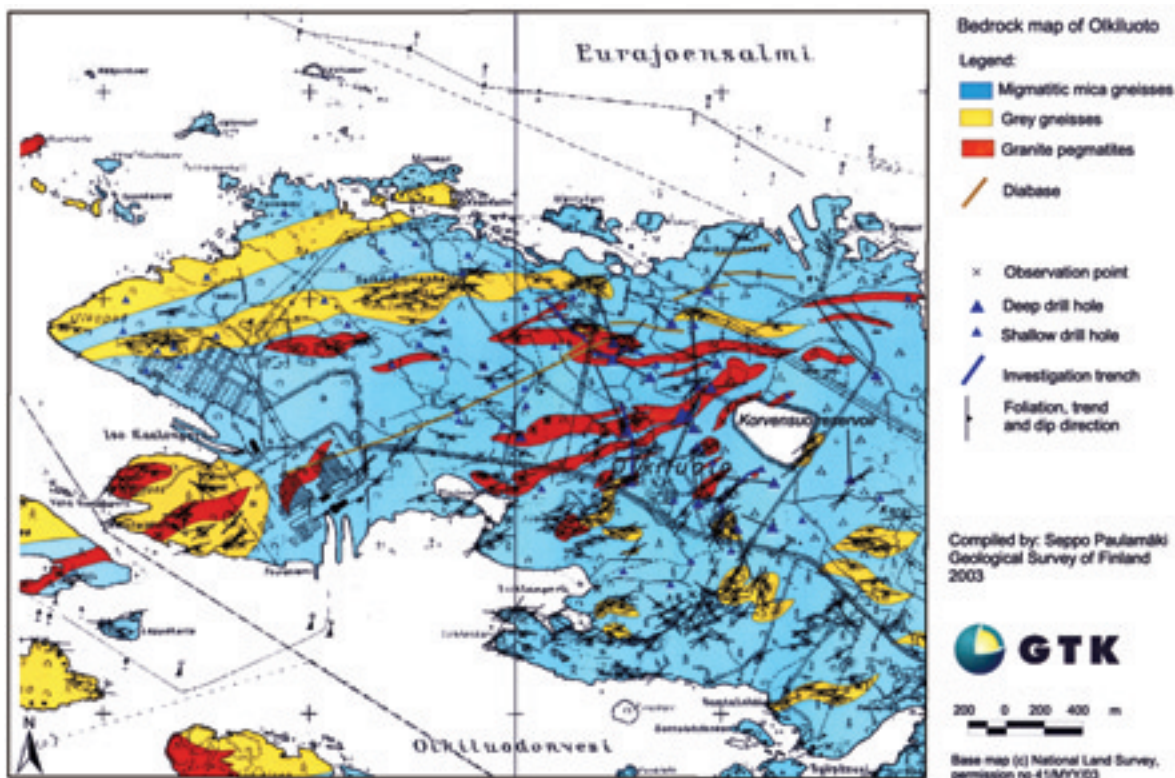
1. フィンランドの国旗、国旗は雪と湖をデザインしたものである。



2. フィンランドの大地。



3. フィンランド南西部とオルキオト周辺の拡大。高緯度地帯にあるため約1万年前、フィンランド国土は氷河の下にあった。



4. フィンランド地質調査所(GTK:Geologian tutkimuskeskus)による、オルキオトの地質図、オルキオト周辺は19億年前のミグマタイトと花崗岩よりなり、12億年前の輝緑岩脈が貫いている。



5. オルキルト原子力発電所。この原子力発電所(軽水炉)は1979年にスウェーデンの技術的支援により建設された。1982年に増設された二号機とあわせて840MW×2の出力を持つ。



6. オルキルト発電所周辺露頭にみられた氷河による擦痕。



7. 高レベル放射性廃棄物処分施設建設のための調査ボーリング孔。



8. ボーリングコア。コアはすべて一般に公開される予定である。



9. 原子力発電所周辺の露頭。ミグマタイトを切る花崗岩。



10. 将来使用済燃料を入れることになる「キャニスター」(写真提供:ポシバ社 <http://www.posiva.fi/>).